

第五福田認定こども園

自分の思いを伝えよう～振り返り活動を通して～

こども園の幼児クラスでは、その日の活動の振り返りをする時間を作っています。保育者が「今日は何が楽しかったかな？」と子どもたちに質問すると「鬼ごっこ！」「お山作った！」と嬉しそうに手をあげて発表しています。6月頃から輪になって座り、みんなの顔が見えるようにすると、人前で話すことが苦手な子どもも、友達の言ったことに「くすっ」と笑ったり、「え～！」とびっくりしたりする表情がお互いに見えるようになりました。

ドッジボール活動の振り返りをしていた場面です。一人の子どもが「ボールの取り合いをしていたらドッジボールをする時間が少なくなって時間がもったいなかった。」と発表しました。その日は2人の子どもがお互いにボールが譲れずに遊びが中断していたのです。するとそれを聞いていた他の子どもが「けんかではなくてじゃんけん決めていいと思う。」と言いました。聞いていた他の子どもからは「そうしよう。」「いいと思う。」と隣や近くにいる友だちと顔を見合わせて、賛成する意見が多く出ました。活発に発表する姿や自分たちで解決しようとする姿に成長を感じ、とても嬉しく思いました。

自分の思いを伝えること、そして聞いてもらえることは子どもにとってとても大切だと思います。そのためには安心して何でも話せる場所が必要です。こども園がそんな場所になれるように今後も子どもの声に耳を傾けていきたいと思っています。



水島小学校では、子どもたちがよい行動をしたときにGBチケット(よい行動チケット)を渡す取組をしています。

昼休みの時に、友達と仲良く遊べてよかったです。友達とおにっこをした時に、譲り合って遊べてよかったなと思います。

人権集会では、縦割り班でフラフープリレーをしていた時にぼくが少しミスをしてしまったけど、友達が「がんばれ。」と応援してくれて嬉しい気持ちになりました。これからは友達に優しい水島小学校にしていきたいなと思います。

三年 大西 陽大

水島中学校

PTA人権教育講演会

本校では6月1日(土)にPTA人権教育講演会を行いました。講師に国立療養所長島愛生園歴史館の田村朋久先生をお迎えして、「人権が尊重される社会のために～ハンセン病から学ぶ～」という演題で、ご講演いただきました。資料やアニメーションを用いたり、元患者さんのお話を交えたりしてハンセン病の概要や歴史、人権問題について、分かりやすく教えていただきました。

生徒の感想の中に「今まで知らなかった。」や「こんなことがあったのか。」など差別の歴史に驚きを感じているものが多くありました。また、あらかじめ知識をもっていた生徒も「危険でめずらしい病気だと無意識のうちに偏見をもっていた。」と自分自身を振り返る様子が見られました。さらに、「無関心はダメで関心をもとうと言われて、今日をきっかけにハンセン病や障がいに関心をもとうと思った。」と、ハンセン病に限らず様々な人権問題に関心をもとうとする生徒もいました。参加して下さった保護者の方にも感想をいただき、とても良い学習になりました。

また、今回の講演会の中では、新型コロナウイルス感染症などの新たな病気とのかかわり方についてのお話もいただきました。今後、生徒たちが病気になった人の人権をどのように守っていけばよいのかを考え、自分たちの行動につなげていけるようになればと思います。



水島小学校

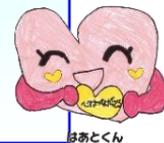
人権週間を終えて・・・

GBチケットを三十二まいも書くことができたり、人権週間のめあて「友達ともっとなかよくなろう」を守ることができたりしました。友達の良いところを見つけてあげることができました。一年生の友達が秋祭りのどんぐり迷路の看板を書くことを譲ってくれたことが嬉しかったです。人権週間が終わっても、もっと友達と仲良くしていきたいと思っています。

一年 佐々木 悠史

二年 高山 楽人

人権週間では、友達にとってもやさしくすることを意識して、仲良くできたのでよかったです。GBチケットをたくさん渡し合って、お互いの心があたたくくなって、いい気持ちになったのでよかったです。そして、もらったGBチケットに「二年生はとても明るいですね。」「みんな親切ですね。」などと二年生みんなのことに對して書いてくれていてうれしかったです。



第60号

令和7年3月1日

発行:水島中学校区人権学習推進委員会 事務局:倉敷市水島公民館(倉敷市水島北幸町1-2 ☎086-444-2541)

研修視察

9月28日(土)

「西日本豪雨災害から学ぶ」

【人権課題:災害被災者、防災・減災】

～災害の記憶と教訓を未来へつなぐために～



今年度の人権学習推進事業の重点課題として「防災」を掲げています。その一環として、今年度の研修視察では真備町を訪れました。午前中は、ぶどうの家真備の津田由起子氏と箭田地区在住の須増国生氏に案内していただき、井領地区のかさ上げ工事・ぶどうの家真備の防災タワー・サツキアパートなど、地域の取組について視察しました。午後は、国土交通省岡山河川事務所の伊森誠治氏による小田川付替え工事の過程や影響についての講話を聞き、実際に現場を視察しながら解説していただきました。当事者の方々から直接お話を聞き、実際に現地を見学したことで参加者の心に残る視察になるとともに、将来を生きる子どもたちに何を残し、何を伝えるべきかについて考える有意義な機会となりました。

《参加者の感想》

- 実際の被災地、復興地の見学ができてとてもよい研修でした。被災地の方々の苦勞や努力、中でも地域連携の大切さを痛感し、災害を自分事としてとらえることはもちろん、ご近所・地域の方々とともに命を守っていくことの大切さを実感しました。
- 貴重なお話をお伺いすることができ、大変勉強になりました。帰ったら、家族や知人・友人に話したいお話ばかりでした。
- 身近で起きた災害ですが、知らないことばかりだと感じました。津田さんのお話を聞いていると、普段からの防災の意識と人とのつながりを大切におきたいと改めて思いました。



人権学習推進委員・事務局員等研修会

1月18日(土) 【人権課題:防災・減災】

「『その時』あなたは どうする!？」

講師:城内 豊司 氏 (防災士)

今年度の研修は、地域で活躍されている防災士の城内氏を講師にお迎えしました。自助・共助の重要性についてのお話を聞き、カードゲーム「なまずの学校」を使って具体的な行動について話し合いました。中学生も参加して、和やかで、とても意義深い交流にもなりました。



城内豊司 氏



《参加者の感想》

- ☆は中学生の感想
- ♡ これまでの日常では考えられないことも多々ありました。急な災害時に冷静に判断できるよう今回の研修を忘れずに過ごしていきます。
- ♡ 中学生と一緒に防災を考える機会は大変よかったです。なまずの学校はおもしろくて勉強になりました。☆災害が起きた時に何をすればよいのか、何を留意すればよいか分かりました。すぐに手に入る物、使いやすいものを留意して備えておきたいです。
- ☆同じチームの方々との意見を伝えあって、なるほど!と思う意見もあり、とても勉強になりました。

ふれあい・交流活動

10月18日(金) 【人権課題:子ども】

今年度は、小ざくら保育園の秋祭りのみこし運行を通して園児との交流を図りました。昨年度に引き続き、水島小学校の1年生の児童10名も参加して、総勢90名を超える賑やかなみこし行列となりました。

子どもたちの「わっしょい、わっしょい」の掛け声に合わせて、沿道の方からも温かい声援を受けながらの運行となり、たくさんの元気がもたらされた交流となりました。なお、のぞみ保育園は園舎の改修工事のため、今年度は交流ができませんでした。



「心を紡ぎ、世界をつなぐ」～AMDAの国境を越えた支援を通して～

特定非営利活動法人AMDA副理事長 難波 妙氏

ウクライナ、モンゴル、熊本、能登など、日本そして世界の各地で20年にわたる支援活動に携わってきた難波氏。その活動を通して考えたことや感じたことについてたくさんの記録写真を見ながら分かりやすく伝えていただきました。

「困ったときはお互い様」「ともに歩むことで信頼と尊敬が生まれる」「現地で生活している人を大切にする」というAMDAのコンセプトは、まさに一人ひとりが大切にされる地域社会の実現につながる考え方と共通するものでした。

《参加者の感想》

- 体験に基づく話で、説得力があり、とてもすばらしいお話でした。日常のありがたさ、普通が普通でない……改めて考えさせられました。貴重なお話が聞けて本当によかったです。まだまだ自分も頑張らねばと思いました。
- 支援活動と口で言うけど、どれだけの方がどのようなことをされるか。想像以上でした。人を助けるということは並大抵の心ではできないと思いました。日常のありがたさを痛感いたします。できることは少しでも協力したいです。
- 現場で支援活動を数多くしてこられた難波先生の話、写真に見入ってしまいました。家族をもちながらの活動は大変。送り出す家族の理解、留守中の心配……年齢とともに「余生」に入った感もありますが、定年は死ぬ時……まだまだ私にも何かできることがあるかもと思うことができました。



ほのぼのコンサート&防災トーク「音色でみちびく安全・安心」
EWI奏者・防災士 リリー(武田享子)氏

リリー氏がEWI(イーウィ・電子楽器)で奏でる曲で、会場の雰囲気が一気に和やかになりました。その後は、防災用品の具体的な利用方法から収納の仕方まで、実物を示しながら具体的に伝えていただきました。特に、身近にあるものの使い方の話では、『目からウロコ』のような内容がたくさん含まれていて、驚いた人が多かったようです。また、災害ボランティアの体験や被災地の視察を通して考えたことを交えてのお話で、参加者の多くが自分事として考えることができました。

《参加者の感想》

- いろいろな例を挙げられて自分の経験を話されていたので、本当に防災が身近に感じられてよかったです。自分にできることをしていきたいと思えます。
- ご自身の体験をもとに、具体例を紹介されて、とてもよく分かりました。特に、防災用品の必要性が心に残りました。実行せねばと思えます!!
- 日常的に防災用品を使ってみることで、役立つ内容が多かったです。今日の講演会に参加できてよかったです。「情報収集力」「判断力」「行動力」は防災に大切なこと、よく心にとどめておきます。



◆人権グッズを作りました◆

今年度の人権啓発グッズとして、小中学生の人権作品を印刷したラベルを入れた「ポケットティッシュ」と人権キャラクター「はあとくん」のロゴ入りの「ボールペン」と「付箋」を作成しました。今後の人権学習の事業でお披露目する予定です。どうぞ、ご期待ください。



◆第2回人権作品展◆

11月28日(木)～12月10日(火)

人権週間(12/4～12/10)に合わせて、水島公民館展示室で第2回人権作品展を行いました。小中学生の人権ポスター・標語や近隣の保育園・幼稚園・こども園の子どもたちの「はあとくん」(水島中学校区の人権キャラクター)のぬり絵、合計287点の作品を展示し、地域の方や保護者など、多くの皆様に見ていただきました。



ひまわり賞 決まる!

513名による投票の結果、ポスターは内田英汰さん(水島小・2年)、標語は板倉結生さん(水島小・4年)がそれぞれ「ひまわり賞」に決定しました。今年度も出品いただいた人権標語を使った「カレンダー」を作りました。水島公民館の事務所に設置しています。



水島小・2年 内田 英汰

◆第1回人権作品展◆ 10月19日(土)・20日(日)

水島公民館祭に合わせ、水島小・第四福田小・第五福田小・水島中の児童生徒が作成した人権ポスター・標語を展示しました。推進委員や事務局員が、「一番心に残った作品」の投票を呼び掛け、たくさんの方々熱心に観覧してくださいました。

水島中学校



水島中・2年 佐藤 蒼甫

- 水島中・1年 小野 桃羽
やめなよ
その一言で
変わる未来
- 水島中・2年 永松 瑠花
あなたには
認めてくれる
人がいる
- 水島中・3年 内海 志樹
突きささる
ナイフが言葉
後付けの言葉

水島小学校

- 水島小・1年 荒木 紅璃
いじめは
いじめを
なくして
- 水島小・2年 高山 楽人
みんなであそぼう
けんかせず
- 水島小・3年 河田 心菜
えがおのたねまき
なかよしの花を
さかせよう
- 水島小・5年 高橋 大地
いじめをなくして
いじめをなくして
いじめをなくして
- 水島小・6年 加藤 心歩
大丈夫、
十人十色
君は君

第四福田小学校



四福小・3年 中見 璃乙

- 四福小・1年 佐々木優衣
まじにちがう
みんなのえがお
みんなのえがお
- 四福小・2年 西 泰輝
たすけあり
あいてのこと
かんがえよう
- 四福小・3年 水田 萌香
こころは
ともだち
さきこころ
- 四福小・4年 片山 新太
いじめを
なくして
いじめをなくして
- 四福小・5年 後藤 心菜
きこらりの
みんなのえがお
まもろうよ
- 四福小・6年 小松原龍仁
いじめから
人を救う
勇気が欲しい

第五福田小学校



五福小・1年 坂尾 悠人

- 五福小・1年 中野 結翔
あしはな
こころは
ふわりふわり
- 五福小・2年 小田 恭正
えがおは
はなをさかせる
- 五福小・3年 三好 萌結
みんなが
よくなる
- 五福小・4年 佐藤 瑠華
みんなの
はなをさかせる
- 五福小・5年 小野田水面
大丈夫
味方はいるから
頼ってね
- 五福小・6年 福田 胡央
ありがとう
みんなが
いえる